

平成 27 年度 第 2 回学校関係者評価委員会報告書

八 頭 高 等 学 校
校 長 小 倉 健 一

評価日		平成 28 年 1 月 29 日 (金)
委 員	氏名	資格・所属等
	内田 八孝	紅白園 職業訓練指導員
	山本 和代	PTA 副会長
	村山 洋子	船岡小学校長
	小林 俊介	八頭中学校教頭
	飯野 公一	鳥取県警察本部スクールポーター
第 2 回 学校評議員会と同時開催		
	新 誠	学校評議員 八頭町郷土歴史研究会 会長
	吉田 英人	学校評議員 八頭町長
	佐藤 雅子	学校評議員 鳥取県スポーツ指導員
評価・提言		学校の所見・改善策等
1 今年度の自己評価について (1) 重点目標の達成状況 【八頭高生らしい態度の育成】 ○欠席者は 12 月末までで述べ 1988 名となっているが、実質はどのような状況か？ ○学習と部活動の両立について、生徒のやる気を起こさせることがポイントで、やる気ができれば学習すると思う。 ○学習と部活動の両立について昨年度も課題であった。まずは、八頭高校の方針「文武両道」についてよく定めること。学習時間が長いからと言って部活動との両立ができているわけでもない。文武両方のスペシャリストに全員がなることはありえない。武を頑張るものは文の時間が限られるのが現実だから、例えば「文武の一方しかない生徒をなくす」といった目標の立て方もある。学習時間は少なくとも集中して成果を上げることもできる。生徒それぞれの目標に応じた両立の姿に対して回答を求めるのが良い。また、別のアンケートでは両立できていると思う生徒が 60% いるのに、聞き方によっては両立できるが 19% などとなっている。部活と学習の両立について目標設定を工		●長期欠席者を除くと、「1 人平均 2 日休んでいる」状況です。 ●昨年度の学校評価アンケートと比較すると、学習に向かう姿勢はやや向上している状況が生徒・教職員の回答結果より見える。しかし、学習時間の少なさなど、課題である。面談等にて進路意識を向上させるよう取り組んでいるところ。 ●来年度に向けて、目標の立て方や方策について改善を考えていきたい。

夫すれば指導方法も変わり、現在の「C」評価が「B」となっていくのではないか。

○PTA活動の地区研修会では学校の事情がよくわかってよいが、参加者が少なく、鳥取市内からの通学生も増えておりすべての地区で開催されているわけでない。PTA役員として保護者への様々な啓発・発信をしたい。保護者は子どもたちの進路実現をみな応援しているので、保護者同士が集まって色んな話ができるようなPTA活動をしなくてはと改めて感じる。

【授業改革と主体的学習者の育成】

○資料の授業研究会は自主研修か。

○講義形式からの授業の変化を感じる。小学校ではALは当たり前である。小中高のアンケート結果をこれからどう生かすかが重要と感じる。

○スマホなどの普及により「自分の言葉を発しない」傾向がある。新任教員にも見受けられる。「自分の言葉で語る」ことは大切。十分取り組んでほしい。

○大学入試が「記述型の入試」となるのはいつか？

○ALは八頭高校の実態に応じた独自のスタイルを確立してほしい。「考える」ことに対してその手立てをどのように準備するかが必要である。

【コースにおける特色ある教育活動の推進】

○各コースに特徴のある取組があり、個に応じた学習や部活動などを含めてとても魅力がある。もっとこの良さを地域や保護者や中学生に広報してほしい。

○充実した取組に驚いた。TVなどで体幹トレーニングの重要性を見るが、八頭高でも先駆けてバランス改善などにも取り組まれていて素晴らしい。

○授業の名称だけでも、自分たちが通った時代と大きく変わっている。タイムスリップしたようで、よくここまで変われると感動している。

○探究ゼミの発表や「あるものさがし」はとても素晴らしい。地域の研究を進める中で、これから行き詰る時期もあるが、そんな時は地域に入り込んで研究するなど工夫してほしい。

○八頭高校の様々な取り組みは素晴らしいと感じる。先生

●進路関係の講演会には多数の保護者の来校がある。来年度は各学年PTA研修会・PTA総会などで有意義な進路研修会を実施し、まずは多くの保護者の方に来校いただき、学校の状況を知っていただく機会を増やしたい。

●指定されたものと自主研修がある。

●ALの最終目標は、学力が向上したかどうか。今後はこの検証に取り組みたい。

●予定は平成31年度入試より。高校授業は大学入試の在り方に大きく左右されると感じる。

●ALには様々なタイプがある。それぞれに意義はあるが、共通しているのは「自分の言葉で語ること」。実態に応じたALを進めたい。

●今年度体育コース独自のパンフレットを作成し、県内中学校へ配付した。（この会議の後、八頭タワープロジェクトに関する情報を八頭郡中学校へ送付）

●ありがとうございます。

方もあまり心配されず、このまま取り組んでほしい。

【八頭タワープロジェクトの充実】

○八頭高ライフ体験で、対象を八頭町から八頭郡に広げられ、内容もよかった。中学生にとっても好印象であった。高校生の運営で、先輩からの話などもあり、本当の高校生の姿が見え、中学生が高校を身近に感じる事ができた。

○体育コースの中学生に対するアプローチとして、オフシーズンなどに中学生の部活に先輩がコーチに行ってはどうか。中学生も年の近い兄・姉のような感覚で親しみやすいし、高校生にとっても「人に伝える」良い経験ができる。このような交流を通して「八頭高に進学したいなあ。」と感じるのではないかな。

●是非検討したい。

【全般】

○今の中学生は進学校を保護者の意見より自分の意思で決めている。自分が高校にあわせるのではなく、高校が自分にあわせてくれている方に魅力を感じている。「あなたにあった勉強ができる」という言葉があるだけで、それが表面的なものであっても素直に受け止めて私立高校へ進学する中学生が多い。八頭高校の内容はとても魅力的で、進学についても国公立大学から専門学校まで多岐にわたり、本当に自分に合ったコースが設定されている。東部地区で一番魅力があると感じる。もっと中学生にアピールしてほしい。

●努力します。

○このたびの臨時休校の見直しは、よい判断である。

○スクールサポーターの委員より、スマホの危険性などを具体的にうかがった。

(2) 説明・公表について

○今まで同様のスケジュールで HP の公開で良い。

2 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について

○高等学校で、こんな風に毎年毎年工夫し改善されている学校はなかなか無いと感じる。

3 取組改善のための提言

○学校運営について学校の努力を感じる。今後も是非続けてほしい。